

【日本経済調査資料シリーズ7】

昭和前期 商工信用録

THE MERCHANTS' AND INDUSTRIALS' CREDIT BOOK

第Ⅱ期 第1回配本 昭和5年 全4巻

東日本を中心とした商工業者情報を網羅!!



所信興京東
The Tokyo Koshinjo.



旧横浜正金銀行本店
(現神奈川県立博物館)



旧富士銀行 横浜支店
元安田銀行 横浜支店
(現東京芸術大学大学院映像研究科馬車道校舎)

■特色

昭和初期の東京・神奈川・千葉をはじめ、関東以北（一部愛知・三重・富山・石川・福井を含む）の各府県企業家の営業状態や資産信用情報が中小レベルまで詳細に分かる。

クロスカルチャー出版

内容見本

刊行にあたって
クロスカルチャー出版編集部

小社は先に復刻版第Ⅰ期「明治大正期 商工資産信用録」(全15巻)と第Ⅰ期「明治大正期 商工信用録」(全20巻)を刊行し、続いて第Ⅱ期「昭和前期 商工資産信用録」(全12巻)を刊行した。今回はその続刊、第Ⅱ期「昭和前期 商工信用録」の第1回配本(全4巻)である。

本書は、東日本を中心とした(一部愛知・三重・富山・石川・福井を含む)商工業者の信用情報を中小商工業者レベルまで網羅しているため、企業家や会社・商店に関するソース・ブックとして活用できる、言わば、歴史統計資料として重要である。特に世界恐慌が日本に波及(昭和恐慌)し、不況が昭和6年頃まで続いたこの時期は、経済が苦境に陥り、社会情勢が悪化した時期でもある。研究者や図書館にとつて学術的価値の高い資料である。また、底本として使用する『商工信用録』(東京興信所)は、会員のみへの貸与であったため、今ではほとんど入手困難で図書館等での所蔵も極めて少ない。この資料の復刻する意義は大きい。

今後は2022年春に第2回(昭和15年)、翌23年春に第3回(昭和15年)を刊行して完結の予定である。

【日本経済調査資料シリーズ7】

●昭和前期 商工信用録 第Ⅱ期 第1回配本 全4巻

昭和5年・第61回 総約1,850頁

- 第1巻 第61版 昭和5年 東京府
- 第2巻 第61版 昭和5年 神奈川縣・静岡縣・愛知縣・三重縣
- 第3巻 第61版 昭和5年 千葉縣・茨城縣・埼玉縣・栃木縣・群馬縣
- 山梨縣・長野縣・新潟縣
- 第4巻 第61版 昭和5年 富山縣・石川縣・福井縣・福島縣・宮城縣
- 山形縣・岩手縣・秋田縣・青森縣・北海道・樺太
- 上海・外国人

特色

- 1 昭和初期の東日本を中心にした商工業者情報を網羅。府県ごとの業種・規模等商工業者の営業状態や資産信用情報が満載。
- 2 当時の実業家・会社に関するソース・ブック。

今回の第61版(昭和5年)はほとんど目に触れない極めて貴重な資料



東京興信所刊「商工信用録」について
石井研堂「明治事物起原」に「興信所の始め」(第十編 金融商業部)がある。本邦興信所(民間信用調査会社)の嚆矢は、明治25年(1892)設立の商業興信所(大阪)。商工業者の営業状態や資産状況について、会員や依頼者の問合せに応じ調査、其中重要な数項を掲載し「商工資産信用録」(明治29年、昭和18年)を刊行した。大阪に続き明治29年、京浜地区の銀行団が発起し東京に設立されたのが東京興信所。初代会長は渋沢栄一、明治32年10月から「商工信用録」が刊行された。当時、興信所の必要性は認識されておらず、その故か、研堂「明治事物起原」の記述もいたって短い。また、「商工資産信用録」「商工信用録」ともに、会員に対して貸附されたものであり、非会員に対して転貸することも禁じられた。東京興信所は、「商工業者の資産及び営業の状況を調査報告して商工社会信用の発達を助け、銀行その他商工業者に営業上の便利を興ふる」目的で設立。「商工信用録」は、この間の日本資本主義経済発達の重要な情報源であり、研究者にとって必須の基本文献である。会員貸附であったため、図書館等での所蔵も少ない。

※2021年2月からのNHK大河ドラマ「青天を衝け」のモデルは渋沢栄一です。

●世界恐慌(1929年)が日本にも及び不況が深刻化した年、昭和5年。

愛知県

姓名	職業	店名又は住所	開業年月	正味	内高収入	信用	多額	取組
伊藤 次郎	建築	名古屋、大須	27	R	T	Ca </td <td>4</td> <td>100</td>	4	100
伊藤 次郎	建築	名古屋、大須	27	R	T	Ca </td <td>4</td> <td>100</td>	4	100
伊藤 次郎	建築	名古屋、大須	27	R	T	Ca </td <td>4</td> <td>100</td>	4	100

愛知県

姓名	職業	店名又は住所	開業年月	正味	内高収入	信用	多額	取組
豊田 佐助	織物	豊田、大須	30	X	Da </td <td>Ca</td> <td>3,4</td> <td>100</td>	Ca	3,4	100
豊島 半七	織物	豊田、大須	30	X	Da	Ca	3,4	100

千葉県

姓名	職業	店名又は住所	開業年月	正味	内高収入	信用	多額	取組
大倉 喜七郎	ホテル	千葉、大須	10	X	Da	Ca	4,1	100
茂木 順三郎	醤油	千葉、大須	10	X	Da	Ca	4,1	100

東京府

姓名	職業	店名又は住所	開業年月	正味	内高収入	信用	多額	取組
安田 善次郎	銀行	東京、大須	10	X	Da	Ca	4,1	100
安田 善次郎	銀行	東京、大須	10	X	Da	Ca	4,1	100

東京府

姓名	職業	店名又は住所	開業年月	正味	内高収入	信用	多額	取組
安田 善次郎	銀行	東京、大須	10	X	Da	Ca	4,1	100
安田 善次郎	銀行	東京、大須	10	X	Da	Ca	4,1	100

●伊藤次郎左衛門 (松坂屋創業家の一族)

●豊田佐助 (織物)

●豊島半七 (織物問屋、豊島株式会社社長)

●大倉喜七郎 (大倉財閥創始者大倉喜八郎の2代目ホテルオークラの設立者)

●茂木順三郎 (6代茂木七郎右衛門の長男、野田醤油の社長)

●安田善次郎 (安田財閥創始者安田善次郎の長男2代目善次郎、安田銀行(現みずほ銀行)頭取、安田生命保険社長等歴任)

●人物から会社・産業がわかる、時代がよめる!! ●昭和前期の東日本を中心とした商工業者情報を網羅!!

北海道

姓名	職業	店名又は住所	開業年月	正味	内高収入	信用	多額	取組
板谷 宮吉	海運	札幌、大須	10	X	Da	Ca	4,1	100

北海道

姓名	職業	店名又は住所	開業年月	正味	内高収入	信用	多額	取組
2代 相馬 哲平	金融	札幌、大須	10	X	Da	Ca	4,1	100

新潟県

姓名	職業	店名又は住所	開業年月	正味	内高収入	信用	多額	取組
西脇 濟三郎	銀行	新潟、大須	10	X	Da	Ca	4,1	100

神奈川県

姓名	職業	店名又は住所	開業年月	正味	内高収入	信用	多額	取組
平沼 亮三	貸地	横浜、大須	10	X	Da	Ca	4,1	100

神奈川県

姓名	職業	店名又は住所	開業年月	正味	内高収入	信用	多額	取組
原 富太郎	生糸	横浜、大須	10	X	Da	Ca	4,1	100



●板谷宮吉 (海運王2代目)



●安田善次郎 (安田財閥創始者安田善次郎の長男2代目善次郎、安田銀行(現みずほ銀行)頭取、安田生命保険社長等歴任)



●原 富太郎 (生糸商、三溪園)

●西脇濟三郎 (銀行家、西脇銀行頭取) 学匠西脇順三郎は分家生まれ

●平沼亮三 (貸地家会社員、横浜市長歴任)

【日本経済調査資料シリーズ7】

昭和前期 商工信用録 第Ⅱ期

■体裁 B5判 上製・総約1,850頁 ■底本 「商工信用録」(東京興信所刊)

配本	巻数	定価	ISBN	刊行
第1回(昭和5年)	全4巻	本体120,000円+税	978-4-908823-80-0	2021年2月刊行

※第2回(昭和10年)、第3回(昭和15年)はそれぞれ2022年5月、2023年5月刊行の予定。

<おすすめ先>日本経済史・経営史・産業史・地域史・日本近現代史 / 大学図書館・公共図書館など



日本経済調査資料シリーズ

【日本経済調査資料シリーズ1】世界遺産指定の「富岡製糸場」はじめ各工場・鉱山の変遷を明らかにする基本データ集。

全国工場鉱山名簿 全3巻 在庫僅少

解説:阿部武司(国士舘大学教授)

●定価(84,000円+税) ●B5判・総約1800頁 底本:『全国主要工場鉱山名簿』ほか。 ISBN978-4-9905091-0-1 C3333

【日本経済調査資料シリーズ2】米司法部戦時経済局が押収した米日本商社資料を集めた貴重な資料。

米司法部戦時経済局対日調査資料集 全5巻 在庫僅少

編集・解説:三輪宗弘(九州大学教授) ●定価(160,000円+税) ●B5判・総約2,500頁(改訂版) ISBN978-4-908823-17-6

【日本経済調査資料シリーズ3】明治・大正期の西日本を中心とした企業信用情報がわかるソース・ブック。

明治大正期 商工資産信用録 第1期 第1回配本 全6巻 ISBN978-4-905388-12-8 C3333

●定価(130,000円+税) ●B5判・総約3,800頁 底本:『商工資産信用録』(商業興信所刊 明治42年~大正元年)

明治大正期 商工資産信用録 第1期 第2回配本 全9巻 ISBN978-4-905388-19-7 C3333

●定価(195,000円+税) ●B5判・総約5,700頁 底本:『商工資産信用録』(商業興信所刊 大正4年~大正14年)

【日本経済調査資料シリーズ4】明治・大正期の東日本を中心とした企業信用情報がわかるソース・ブック。

明治大正期 商工信用録 第1期 B5判上製 底本:『商工信用録』(東京興信所刊 明治32年~大正14年)

●第1回配本(全4巻) 明治32~44年 定価(100,000円+税) 総約2,600頁 ISBN978-4-905388-29-6 C3333
 ●第2回配本(全4巻) 大正4年 定価(120,000円+税) 総約2,100頁 ISBN978-4-905388-75-3 C3333
 ●第3回配本(全4巻) 大正7年 定価(120,000円+税) 総約2,200頁 ISBN978-4-905388-89-0 C3333
 ●第4回配本(全4巻) 大正9年 定価(120,000円+税) 総約2,100頁 ISBN978-4-908823-00-8 C3333
 ●第5回配本(全4巻) 大正14年 定価(120,000円+税) 総約2,000頁 ISBN978-4-908823-10-7 C3333
 明治大正期の各府県企業の営業状態や資金信用情報が詳細にわかる。中小小工者レベルまで網羅する。外国人も収載。

【日本経済調査資料シリーズ5】「長尾文庫」からの企業資料セレクション。

明解企業史研究資料集 第1回配本 旧外地企業編 全4巻

編集・解説:佐々木 淳(龍谷大学教授) ●定価(150,000円+税) ●B5判・総約3,500頁 ISBN978-4-905388-48-7 C3333
 旧外地の台湾、朝鮮、満洲国、中国閩内・南洋諸島の12社をセレクション。社史、事業概要・企業活動などを収めた初の資料集。

明解企業史研究資料集 第2回配本 総合商社鈴木商店関係会社編 全3巻

編集・解説:佐々木 淳(龍谷大学教授) ●定価(130,000円+税) ●B5判・総約2,700頁 ISBN978-4-905388-94-4 C3333
 鈴木商店関連資料のほか、関係会社から稀少な社史(豊年製油、天満織物)、樟脳事業関連資料などを復刻。商社史だけでなく産業史・地域史研究にも役立つ資料。

明解企業史研究資料集 第3回配本 繊維産業編 全3巻

編集・解説:佐々木 淳(龍谷大学教授) ●定価(130,000円+税) ●B5判・総約2,500頁 ISBN978-4-908823-23-7 C3333
 戦前期に在来産業の代表・繊維業の地域別製造業者・問屋などを網羅する稀少資料などを復刻。繊維産業史研究の第一級資料!!

【日本経済調査資料シリーズ6】昭和前期の西日本を中心とした企業信用情報がわかるソース・ブック。

昭和前期 商工資産信用録 第Ⅱ期 B5判上製 底本:『商工資産信用録』(商業興信所 昭和6年~昭和16年)

●第1回配本(全4巻) 昭和6年 定価(120,000円+税) 総約1,700頁 ISBN978-4-908823-33-6 C3333
 ●第2回配本(全4巻) 昭和11年 定価(120,000円+税) 総約1,700頁 ISBN978-4-908823-46-6 C3333
 ●第3回配本(全4巻) 昭和16年 定価(120,000円+税) 総約1,750頁 ISBN978-4-908823-53-4 C3333
 昭和前期の各府県企業の営業状態や資金信用情報が詳細にわかる。旧植民地や外国人の情報も掲載。

クロスカルチャー出版

学術出版

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町 2-7-6
 TEL: 03-5577-6707 FAX: 03-5577-6708
 e-mail: crocul99@sound.ocn.ne.jp

取扱書店

推薦します

富豪・企業家の史的研究に不可欠な重要資料

国士舘大学政経学部教授 阿部武司

貸出先の信用調査は銀行をはじめとする金融機関にとって最も重要な業務であるが、個々の銀行が独自にそれを実施する際のコストを社会的に節約するために興信所が設けられた。まず1892年に大阪で外山脩造の主導によって商業興信所が、次いで1896年に東京で渋沢栄一を会長として東京興信所が設立された。クロスカルチャー出版が、明治大正期、さらに昭和戦前期と、刊行時期を追って復刻してきた『商工信用録』(東京興信所刊行。主に東日本を対象)および『商工資産信用録』(商業興信所刊行。主に西日本を対象)は、個別の企業家に関する信頼に堪える「正味身代」(資産総額)や信用の程度を詳細に示した文献であり、今日の研究者にとっては、刊行時における企業家たちの信用力を知ることができる貴重な資料である。近年、全国各地で展開してきた富豪の企業家活動に関する歴史的研究が精力的に推進されているが、各富豪が全国的に見てどの程度の地位にあったのか、あるいは、どの程度しっかりとした存続の基盤を持っていたのか、という基本的事実への論及は意外に少ない。また、ある企業家が好況期にどの程度まで成長したのか、同じ人物が長期不況期にはどこまで持ちこたえられたのかも客観的に知りたいところである。さらに、多数の企業家を対象にして、それぞれの人物に関する資産額の推移を追うことによって、経済的格差が拡大していったのか否かといった問題も興味深い。『商工信用録』と『商工資産信用録』は以上のような論点を考察する上で、まことに有益と思われる。山崎広明氏のようにこれらの資料を駆使した研究者がいなかった訳ではないが、興信所が会員に限って配布していたという事情によって閲覧が必ずしも容易でなかったために、使用されることが多くなかった。しかしながら、復刻されたそれらが主要な公共図書館や大学の図書館・研究室などに備えられることによって、その活用の条件が今や整いつつある。

